

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401178		
法人名	社会福祉法人朝日福祉会		
事業所名	グループホーム花応園		
所在地	長崎県雲仙市国見町神代甲952		
自己評価作成日	令和7年7月28日	評価結果市町村受理日	令和7年10月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

有明海を望む高台に、通所介護、有料老人ホーム、支援ハウスや保育園等の施設がある。すぐ下には、運動場がある。園児の遊ぶ姿や運動会の練習を見ることができます。入所者の皆様も喜んで見ていらしゃいます。毎日入浴の時間を設けているので、ゆっくりと入浴を楽しんでいらしゃいます。職員一同、入所者様全員が明るく、元気に楽しく、その人らしく過ごしていただけるように支援させていただいてます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和7年10月3日		

ホームは有明海を望む高台に位置し、同法人が運営する通所介護、有料老人ホーム、支援ハウス、保育所等の各事業所と隣接している。入居者の残存能力を活かす取り組みとして、可能な範囲で茶碗ふきや吊るし柿に紐を通す作業、梅のヘタ取りといった生活リハビリにつながる活動を取り入れており、役割意識や活動性の維持・向上に貢献している。毎日入浴日を設定しており、入居者はゆったりと入浴を楽しみ、職員は入浴介助を通してその方の皮膚の状態、着脱の出来具合、体調等の変化に気づく機会を確保できている。食事は栄養士による献立に基づき、職員の手作りで提供されている。毎月1日の赤飯や鯛の塩焼きといった行事食、また誕生会での刺身、茶わん蒸し、手作りケーキなど、入居者の嗜好に合わせた工夫が凝らされており、食事が楽しみとなるよう配慮されている。10月にはハロウィンによる保育園児の来訪が予定されており、入居者の喜びや活力に繋げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名 グループホーム花応園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中で自分らしく過ごす。と言う 理念を掲げやっています。近年は感染症対策の為、地域との交流ができていない。	入居者が「生き生きと過ごせる」「喜んでいただける」「気持ちよく過ごせる」ことをサービスの根幹と位置づけ、職員の行動指針として「誠心誠意前向きに」取り組む姿勢、「わがままが自然に言える雰囲気づくり」を基本方針として掲げている。法人方針に基づき、ホームの理念として「地域の中で自分らしく過ごす。」を掲げ、事業計画書にも謳い、今年度の年間目標を「利用者に寄り添う」とし、職員は入居者一人ひとりが楽しく、その人らしく暮らせるよう、支援に努めている。	理念・方針は掲示されているが、職員への周知状況は十分とは言えない。理念の再周知及び共有を図ると共に、例えば、毎日の朝礼や申し送り時に、5つの法人方針から一つをテーマとして取り上げ、それに基づいた前日の良い事例や、改善が必要な事例を1分間発表する時間を設ける(ローテーション制)、年間目標「利用者に寄り添う」については、職員間で「寄り添うとは具体的にどういうことか？」を定義し、具体的な行動例を話合うなど、理念を「意識するもの」に変えるために工夫することを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	研修会や会議には、参加しているが、リモートが多い。	敷地内にある同法人の通所介護事業所の利用者(入居者の知人等)と会話をする機会があり、法人内の事業所間連携による交流の機会を提供している。地域の状況に応じた感染対策を講じながら交流機会を確保しており、地域社会との繋がりに努めている。グループホーム連絡協議会、運営推進会議、島原地域広域市町村圏組合などの関わりは継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の行事等は、全く参加できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	身体拘束適正委員会・身体拘束・虐待、利用者様の現状報告、自己評価や外部評価報告、研修報告等、また、利用者家族からの要望等聞くようにしている。	運営推進会議は、市職員、民生委員、家族代表、施設長、計画作成担当者、職員といった関係者により構成されている。会議の議題は、入居者の生活状況の現状報告、職員研修の実施内容、および身体拘束適正化に向けた取り組みの報告などを主要なものとしている。各委員からはこれらの報告事項に対して質疑応答が行われ、活発な意見交換を通じて運営の透明性を確保し、実効性の高い運営が図られている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	認定調査員の方や、運営推進会議の担当者様には、伝えている。	管理者は介護計画の更新手続きや生活保護制度を利用する方には意見書を記入し提出する等、日頃から行政担当者と連絡を図り協力関係を築いている。また、市や半島のグループホーム連絡協議会とも連携し、リモートでの職員研修への参加や、会計系の職を担うなど協力関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、島原半島認知症対応型共同生活介護協会の研修に参加している。また、運営推進会議でも報告している。	身体拘束ゼロの取り組みを継続されている。グループホーム連絡協議会主催の身体拘束に関するリモート研修会に職員が参加し、参加できなかった職員には資料を用いた伝達研修を実施している。日常的な課題であるスピーチロック(言葉による拘束)の防止については、緊急時や偶発的な状況下において、職員から無意識に不適切な言葉が出てしまう可能性を認識している。この課題に対し、職員間で適切な声かけ技法の検討等、注意を払うよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についても、島原半島認知症対応型共同生活介護連絡協議会の研修に参加している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在必要な方はいらっしゃらない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族の方には、契約時に説明している。要望等も、その時に尋ねる様にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に置いているが、ほとんど回答がない。	運営推進会議においては、家族が持ち回りで参加する体制を確立しており、運営やケアに関する直接的な意見交換の機会を定期的に設けている。家族が来訪された際は入居者の日々の生活の様子を具体的に伝えることに加え、会話を交わす中で家族からの要望や意見を聴取するよう努めている。玄関に意見箱を設置しており、家族や関係者が意見や提案を提出できるようにしている。	毎月発行される「ホームだより」は、家族の安心に繋がる情報提供ツールとして評価される。今後、個人情報保護の原則を厳守し、承諾を得た上で、リハビリテーションや行事の様子、趣味活動に取り組む入居者の姿等、本人の写真を掲載することで、家族の安心感の一層の醸成に繋がるものと期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議ができるときは、行事や利用者様の情報交換を行っている。	職員は、申し送りおよび職員間の日常的な対話の機会において、入居者の気づきや、行事等の企画提案を行っており、これらの意見や要望は運営に反映されている。また、管理者は、職員それぞれの勤務状況や負担の公平性に配慮し、勤務シフトの立案と運用を行っている。夜間帯の安全管理体制においては、職員の詰め所にベッドセンサーシステムを導入している。ハラスメントに関する研修参加や現状報告を運営推進会議に回り、透明性の高い運営に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自分達の思い通りに、運営させて頂いる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や資格取得試験等、受けるように声掛けを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の研修に参加したり、役員会等、参加している。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	法人内の居宅介護支援事業所からがほとんどだが、他の居宅介護支援事業所からの相談、入所も増えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学、相談は、事前に連絡を頂いた方については、施設内のけんがくを受け入れている。居宅介護支援事業所の、介護支援専門員の方とは、密に連絡を取りあっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	居宅介護支援事業所からの相談がほとんどで、個人的な相談は、電話での空き情報ぐらいで、見学はほとんど無い。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食後の時間を大切にしているので、会話や歌をうたったり、レクリエーション等しながら、教えたり教えられたりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	居室については、入所時に家族にお願いしている。現在は、感染症対策の為、面会を職員室のみとしている為、居室への立ち入りを制限している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人からの要望は、ほとんど無い。あっても、亡くなっている方とかの名前が出てくる。	入居時に本人のこれまでの生育歴を把握することに努め、趣味や馴染みの人や場に関する情報を把握し、その後の介護計画策定や日常生活の支援に活用している。現在、認知症が進行されている入居者も多く、その影響により、自身の生まれ育った場所と嫁ぎ先が混同して語られるといった状況が見受けられるとのことである。病院受診などの外出の機会を利用し、その帰り道で馴染みの場所に立ち寄りといったことや、100歳を祝うなどの慶事においては、家族の希望に基づき、自宅に連れて帰るといった個別的な対応も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その日の体調や調子で変わるが、支えあえるように声かけしている。場合によっては、職員が、間にいるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中の面会を人数制限されているので、家族優先になる為、家族より報告を受けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	尋ねても理解できない方もいらっしゃる。出来るだけ、表情や行動で理解、把握する事に努めている。	言葉で意思表示が困難な入居者に対しては、職員が本人の表情を観察し、入居者の思いを引き出すように努めている。入居当初は帰宅願望があった方がいたが、職員が察知し、声を掛けながら落ち着けるよう支援している。最近では徐々にレベルが落ちてきた入居者もおり本人から意向の申し出は少なくなってきたが、本人本位に検討し過去の生活歴や非言語的なサインを基に、その方らしい生活が継続できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族に話を聞いている。話せる方は、本人に聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝、バイタルチェックを行い、その日の体調や、心身の状態を見て、過ごし方を判断している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング表を作成して職員で話し合っている。	入居者ごとの担当者の選定は行っておらず、全職員で入居者全員の情報を把握し、ケアに当たっている。職員の申し送り時には、入居者の日々の状況を確認・共有し、情報の風通しを良くするよう努めている。ケアプランチェック表に日々の実践状況を○△×と記入し、実施したケアの内容や入居者の反応を記録している。モニタリング表を全職員で確認し、入居者の状況変化やケアの効果について話し合った内容を、計画作成担当者が介護計画に反映するプロセスを確立している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気が付いたことは、書くようにしている。個人差が激しい。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の協力により、自由に外出出来るが、個人差が激しい。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	同じ事業所を通して、地域とつながるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前にかかっていた病院をそのままかかりつけ医としている。また、園独自で、愛野記念病院との関係を持ち、月に一度訪問診療を全員が受けている。その為、夜間や、急変時の受け入れもスムーズに対応して頂いている。	入居前からのかかりつけ医を継続して受診することが可能な体制が整備されている。加えて、愛野記念病院と連携体制を構築し、入居者に対して月に一度の訪問診療を継続的に実施している。医師による診察結果や指示事項については、業務日誌を通じて職員間で速やかに共有され、入居者全員の状態把握と統一的なケアの実施に活かされている。他科受診や、専門的な治療を要する遠方の病院受診が必要となった場合、職員が同行し、診察における情報伝達および入居者の安全確保に努めている。また、投薬内容の変更や入居者の身体状態に顕著な変化が認められた際には、速やかに家族へ電話連絡することで、医療情報および状態変化に関する情報共有を徹底している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	病院受診も、職員全員で行っている為、情報交換も出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	愛野記念病院への入院の方については、訪問診療時など、ドクターと話し、早く退院出来る様に相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴い、看取りに関するアンケートを実施しているが、職員としての看護師の配置がなく、主治医の協力なしには出来ないもので、現在は行っていない。	ホームでは看取り支援は実施しておらず、入居者の重度化に伴う対応方針について家族へ説明されている。入居者の重度化が見込まれる段階で、看取りに関するアンケート調査を家族に実施し、家族の意向を改めて確認している。同時に、ホームで提供可能な医療・介護内容を具体的に説明し、情報提供を行っている。最終的な移行の判断は、医師の判断に基づき、入居者、家族、職員、医師間の協議を経て決定されている。その結果、病院への入院や他施設への移設など、家族が最適な選択を行えるよう取り組まれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル作成している。全員が普通救命講習を受講する様にしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	火災訓練や、災害時の対応については、話し合いを行っている。また、研修に参加している。	年2回の避難訓練を継続的に実施されており、今年度は5月及び9月に実施されている。5月の訓練は地震発生を想定し、消火器の使い方、担架の作り方・使い方、地震時の守り方について学ばれている。備蓄品リストを作成し、賞味・消費期限を管理している。避難訓練の実施状況は運営推進会議においても報告されている。	当ホームでは、令和6年12月付けで業務継続計画(BCP)が策定されており、災害や感染症発生時におけるサービスの継続性に向けた準備が進められている。策定されたBCPの実効性を確保し、緊急時の対応能力をさらに強化するため、今後はBCPに基づき、机上訓練をはじめとする実践的な訓練を定期的実施することが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	難聴方については、大きい声で耳元で話しているのですが、ほかのかたが聞いたら、怒鳴っているように聞こえている時がある。	職員は接遇や身体拘束(スピーチロックなど)に関する研修を受講している。特に、難聴の入居者への対応として、職員は耳元で話すよう努めている。声が大きくなりすぎ、他者から「怒鳴っているように聞こえる」事態が発生する懸念に対し、職員同士で注意し合い、プライバシーを損ねない言葉掛けに努めている。契約締結時には、入居者の写真などの取り扱いについて家族より同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が決める場面も作っているが、決めることができない方もいらっしゃる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全部を利用者様の希望通りに行う事は難し、出来る限り対応する様にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服は、家族が持ち込まれたものがほとんどだが、家族が遠方の方もいらっしゃるので、施設で対応している。カットや、毛染めなどで家族が美容室へ連れていかれる方もいらっしゃる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	全員ではないが、能力に応じて出来る範囲で色々手伝って頂いている。	食事は栄養士による献立に基づき、職員の手作りで提供されている。梅干しを漬けたり、ヘタ取りを入居者に手伝ってもらうなど残存能力を活かす場面がある。毎月1日の赤飯や鯛の塩焼きといった行事食、また誕生会での刺身、茶わん蒸し、手作りケーキなど、入居者の嗜好に合わせた工夫が凝らされており、食事が楽しみとなるよう配慮されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日常的とは言えないが、飲み物は何種類か用意している。家族が持ち込まれた物は、利用者様全員で頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方は、声掛け、誘導している。出来ない方については、職員が介助している。また、義歯の方は、夕食後洗浄液につけている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄については、記録するようにしている。尿意便意がない方については、時間を見て誘導している。出来るだけ、布パンツにパット使用で過ごしていただいている。	排泄記録は食器棚の横に保管され、排泄状況を記録し、入居者の状態に合わせた個別支援を提供している。排泄自立が可能な方に対しては見守りを、トイレ誘導が必要な方については時間を見ての誘導を実施している。夜間においては、離床センサーを活用して入居者の動きを確認し、トイレやポータブルトイレでの排泄の見守りや介助を行っている。排泄用具については、布パンツにパッドを使用することを原則としており、入居者が可能な限りトイレでの排泄や、排泄の自立に向けた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を行っているが、ほとんどの方が下剤服用されている。様子を見ながら医師と相談して薬を調整している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴については、毎日入浴の時間を設けているので、楽しんで入浴なさっている。また、拒否された方については、時間を置いて声掛けするなど、スムーズに入浴して頂けるように工夫している。	毎日入浴の時間を設定し、入居者がゆったりと湯舟に入って楽しめるよう支援している。入浴の際にはバイタルチェックを必ず実施し、体調変化に留意している。また、入浴を拒否された方に対しては、時間を置いてから改めて声掛けをするなど、入居者の意思を尊重しスムーズな入浴を促す工夫を行っている。重度の方への介助時には、職員2名体制とリフトの使用により、安全に留意した上での支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中は、活動を促して生活リズムを整える様に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬局で頂く薬の説明書を挟むようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日とはいかないが、行事等出来るだけ工夫するようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	重度化に伴い、全員とはいかないが、ドライブに出かける事もある。	ホーム敷地内の自動販売機で入居者自身がジュースを購入する行為を職員が見守り、自主的な活動を促す支援が行われている。正月に帰宅したり、家族の協力の下で100歳の祝いを自宅で行うなど取り組んだ事例がある。体調を考慮し、体調の良い方を対象に、季節の花見やドライブなどの外出支援を実施している。重度化に伴い、全員での外出は難しい場合もあるが、可能な限りドライブへの参加機会を提供している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所で管理している。自販機でジュースを買うくらいです。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、家族からかかって来るが、手紙のやり取りをなさっている方は、いらっしゃらない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂からは、すぐ下にグランドがあり、保育園児の遊ぶ姿が見れたり、周りには花木が沢山あるので、季節を感じる事が出来る。	毎日の清掃を徹底されている。また、感染症予防策として、アルコールおよび次亜塩素酸水を用いた消毒が行われている。感染予防と快適性の両立のため、換気は好天日に実施されているほか、冬季は加湿器とサーキュレーターを稼働させ、温湿度管理に努めている。入居者の生活に季節感と喜びをもたらすため、七夕の飾りつけやクリスマスの飾りつけなどを職員と入居者が共同で実施している。10月にはハロウィンに際して保育園児の来訪が予定されており、地域との交流を通じて入居者の喜びや活力に繋げる取り組みが行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファをいろんなところに置き、それぞれに応じて、好きなところに座って頂けるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋作りは、家族にお願いしている。持ち込み物もいろいろです。	居室は掃き出しの窓により採光と換気が確保され、清掃が行き届いた状態が維持されている。入居者が気持ちよく生活できるよう、エアコンは季節の変わり目に清掃されている。居室には置時計、誕生日や母の日のプレゼントであるプリザーブドフラワー、家族の写真があり、入居者本人にとって馴染みのある、安心できる居室作りに配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の身体状況に合わせて、配置や補助具等を利用している		